

# 山根宏教授を送る

立命館大学政策科学部長 上 子 秋 生

2011年度末をもって、山根宏教授が退職されることとなりました。非常に若々しく精悍な印象で、講師控室で、「疲れた。」と言っている私に「60を過ぎるともっと体力が落ちますよ。」などと言われ、それで初めて、60を過ぎておられるのだと知った程でありました。しかし、退職年齢は一律に來ます。その山根先生を送らなければならなくなりました。

山根先生は、1980年10月に立命館大学経営学部に着任されております。その意味では、1994年の政策科学部開設以後に立命館に着任した者が多い中で、政策科学部内で最も立命館歴の長い、いわば最長老の教授でおられました。

専門分野はドイツ現代文学であり、私には、全くその神髄を紹介できる素養はないのですが、戦後ドイツ文学と「ユダヤ人問題」や東ドイツの文学を主たるテーマとして多数の論文を著され、また、多数の翻訳の業績をお持ちです。また、広義の研究活動としては、独和辞典の編纂に関わられ、日本の文学作品のドイツ語への翻訳も行っておられました。

1999年度に経営学部から政策科学部に移られ、その後今日に至るまで、一貫して本学部の語学教育に携わってこられました。主たる担当科目はドイツ語でありましたが、それ以上に、語学教育全体のまとめ役としての役割を果たしてこられました。その穏やかながらはっきりとした主張をお持ちの人柄から、学部のオピニオンリーダーの一人として、学部の運営に大きな影響を与えてこられておりました。

さらに、大学院でも外国語特別講義をご担当いただいた他、リサーチプロジェクトにもご参加いただき、大学院生の教育に貢献されました。

一方、この間、山根先生が担当された学部、大学全体でのお仕事は非常に数多くありました。

本学における留学生受け入れの最初期には日本語カリキュラムの編成や留学生入試の実施などの責任を担うメンバーの一員として、日本語の授業担当も含めて受け入れ留学生の教育に関しても大きな貢献をされました。1994年度と1995年度には、言語教育センター副所長を務められ、また、1996年度から1998年度の3か年に亘り、教学部の副部長という要職を占めておられました。

また2002年度の言語習得センター(CLA)の開設に当たり、同センターの初任言語ディレクター

に就任され、その後、2005年度から2009年度までは同センター副所長、さらに2010年度より現在に至るまで同センター所長と同センターの役職を歴任され、言語習得センターの発展に尽力されました。言語習得センターにおいては、このようにその運営に主導的な役割を果たされたのみならず、自ら講座も担当され本学のドイツ語教育の高度化に尽力されました。

本学部におきましても、2000年度と2003年度と2度にわたり副学部長の職に就かれ、学部教学の発展に力添えをいただきました。

山根先生はまた大学の枠を超えた研究活動においても、ご活躍してこられました。本学就任後、日本独文学会京都支部会員となられ、長年にわたって支部役員を務めてこられたと伺っております。別けても2007年度と2008年度には日本独文学会の支部選出理事としてご活躍されました。

このように研究者としての才能・能力と、また、教育の運営の手腕を併せ持っておられる山根先生をファカルティの一員としてお迎えし、ともに仕事できたことは政策科学部にとり、また、その構成員にとって幸せなことでありました。ご退職され、その笑顔に接する機会が減ることは寂しい限りではありますが、どうぞこれらもお元気でご活躍され、時には、当学部にも名誉教授としてお出でいただくことをお願いして、送別の文章を閉じさせていただきます。